

聖母女学院

絵と文 福山聖子

クリスマスイルミネーション



虫籠窓や格子戸のある町家が残る街道の
家なみが切れ、大きく開けたその奥に、赤い
煉瓦造りの美しい建物が見えた。明治41年
(1908)に建てられた陸軍第16師団司
令部の庁舎で、戦後、聖母女学院に払い下
げられて、国の登録文化財に指定された。

本館正門前にマリアさまの像が立ってい
て、まさしく聖母の名にふさわしい学舎そ
のものの趣。制服姿の園児がお母さんに手
を引かれ、先生や守衛さんに愛らしい声で
バイバイして下校していくのを見てみると、
昔むかしは軍靴の音が響いていたなんて、
ちよつと想像しにくい。

間もなくクリスマスがやってくる。午後5
時、校庭に飾りつけられたイルミネーション
が点灯した。通りを行き交う人びとは、校
門の門扉に架かる大きなクリスマスリース
越しから、聖らかに輝くイルミネーションを
たのしむことができる。

点灯した時はまだ薄明るかったのに、半
時間もすればすっかり冬の夜である。イル
ミネーションとともに、窓の明かりも光を増
して、より建物の美しさが際立つ。校門前
の街道を往来する勤め帰りの車の喧騒とは
一線を画して、静かなクリスマスを迎えよう
としてくる。

聖母女学院

絵は2017年のクリスマスイルミネーションの様子

福山 聖子 ふくやま しょうこ

京都市生まれ。嵯峨美術短期大学洋画科卒。
まちや里山の古き良き佇まい、暮らしの風景などを絵と文で描いている。
朝日新聞滋賀版、その他出版物に滋賀の風景をテーマに連載している。
画文集「水のしらべ 琵琶湖のうた」(ナカニシヤ出版)。